

千葉大学医学部附属病院で診療された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年10月11日
糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病・代謝・内分泌内科では、遺伝性早老症であるウェルナー症候群の患者さんやウェルナー症候群ではない患者さんの検体を用いて老化に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2019年に実施された「ウェルナー症候群患者検体を用いた老化メカニズムの探索」や「ウェルナー症候群患者由来 iPS 細胞の樹立とこれを用いた新規治療法開発および症例登録システム構築によるエビデンスの創生」に参加され、将来の研究への試料・情報の利用及び提供に同意された方

1. 研究課題名

「ウェルナー症候群患者由来 iPS 細胞の樹立とこれを用いた新規治療法開発および
ウェルナー症候群患者検体を用いた老化メカニズムの探索」

2. 研究期間

2024年承認日～2029年3月31日

この研究は、生命倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

目的：ウェルナー症候群は WRN という遺伝子の複製や修復に重要な酵素の遺伝的変異

によって起きる病気です。白内障、白髪、皮膚の硬化や萎縮、糖尿病、骨粗鬆症、動脈硬化など、通常加齢とともに生じる病気を 20 代から 40 代にかけて発症することから、早老症と呼ばれることがあります。現在のところ、ウェルナー症候群を根本的に治療する方法は開発されていません。また、病気の原因遺伝子は分かっているものの、なぜ、様々な“老化徴候”をもたらすかなど、病気が起きるしくみは解明されていません。

この研究ではウェルナー症候群の患者さんやその対照としてウェルナー症候群ではない患者さんから血液検体や尿検体を供与頂きます。また、手術などで生ずる検体の残りを頂く場合もあります。これらを切片にして様々な老化の解析を行います。また、血液等の細胞から iPS 細胞を作り、老化のメカニズムを解明するために利用させていただきます。これらの研究を通して、ウェルナー症候群の新たな治療法の開発や老化のメカニズムの解明に役立つと考えております。

方法：通常の診療として検査のために採血や採尿を行う際に通常より余分に採血・採尿させていただきます。また、手術時の残余検体については、手術室、あるいは外来において、通常診療の手術で摘除された組織から、皮膚、脂肪や筋肉などを採取させていただきます。

本研究においては、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置き換えた試料・情報は千葉大学及び多くの共同研究機関(5. 研究組織 参照)に提供され、解析がこなわれます。氏名等と研究 ID との対応表は外部には提供されません。

また、あなたの試料・情報はアメリカ、カナダ、イギリス、ノルウェー、デンマークに提供され、様々な老化に関連する解析が行われますが、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置換するなどの加工及び、個人情報の保護に関する法律に準じた安全管理を行います。

日本よりも個人情報やプライバシー等に関する法律や規制が十分でない国・地域の法律や規制は、個人情報保護委員会から公表されています。

(<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/kaiseihogohou/#gaikoku>)

4. 研究に用いる試料・情報の種類

血液検体、尿検体、手術時に採取された組織検体（皮膚、皮下脂肪、筋肉、内臓脂肪、肝臓、腎臓などを摘出した場合にその一部）

診療録に記載されている年齢、性別、身長、体重、病歴、生活歴、職業歴、併用薬、家族歴、臨床症状、血液・尿検査値など

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

【共同研究機関】

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学	前澤 善朗
共同研究機関名	研究責任者
東京大学	岩間 厚志
公益財団法人がん研究会がん研究所	高橋 暁子
東北大学	赤池 孝章
京都大学	江藤 浩之
かずさ DNA 研究所	小原 収
名古屋医療センター	真田 昌
大阪大学	武部 貴則
国立がん研究センター研究所	吉田 健一
山陽小野田市立山口東京理科大学	嶋本 顕
徳島大学	松久 宗英
医療法人社団 内田医院	内田 威一郎
University of Copenhagen	Vilhelm Bohr
University of Washington	大島 淳子
Altos Labs	Juan Carlos Izpisua Belmonte
University of Oslo	Richard Faragher
University of Brighton	Evandro Fei Fang
研究外部委託機関	研究責任者
Combinatics 社	Dr. Ashwini Patel

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どな

たのもののかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院糖尿病・代謝・内分泌内科および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。ただし、既に iPS 細胞などの細胞を樹立した場合や研究上貴重な成果が出ている場合など、解析結果が破棄することが不可能な場合もございます。このような場合は同意を撤回することはできませんが、研究成果の発表時に個人を特定できる情報が公表されることは一切ありません。また、試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

糖尿病・代謝・内分泌内科 講師 前澤善朗

043（222）7171 内線5257